

## 平成28年度第3回軽米町百人委員会

### 文化部会議事録

○開催日時：平成28年11月9日（水）午後6時00分～午後7時15分

○開催場所：軽米町役場庁舎3階会議室

#### ●スポーツの部

出席者	松橋、中村、国久、佐藤、大清水、？事務局吉岡、大川 6名参加
委員長	・班ごとで、最後に部会長さんからまとめの提言をだしてほしい。
事務局 6分	・資料説明。
委員C	・だいたいの意見はでていると思うが、他に気が付いたことなどがあれば。
委員	・町民体育館の雨漏りの問題は優先的ではないのか？
委員A	・電動カーテンか、せめて手動カーテンにしてほしい。
委員E	・駐車場も狭いので、建て替えたらどうか？
委員A	・建て替えの前に、今早急に直してほしいのは町体のカーテンと雨漏り。
委員A	・もし建て替えるならバスケットゴールの上げ下げの所も改善してほしい。
委員C	・建て替えるなら体育館をよく使用する人達に意見を聞きながら作ればいい。
委員A	・体育館の玄関部分はハイキューでも使われているのでそのままのディテールを変えないでほしい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアバイクの使い方の知識があつて、準備運動などの指導が出来るインストラクターを配置してみてもどうか。</li> </ul> <p>体育協会とかと共同で配置してみるなど。一戸ではNPO法人をつけてやっている。</p>
委員A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インストラクターの資格を持った方が管理人として居れば良いのでは？</li> </ul> <p>曜日ごとに各協会員を替えてやるのは難しい。</p>
事務局A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一戸のサンビレッジさんは団体で作っている。例えば体育館の管理はNPO法人にして指定管理にして人材分の料金をとって運営していけば不可能ではないのでは。新しい雇用にもつながる。</li> </ul>
30分 委員C	<p>体育協会の会議の時に法人化しようと話はでていないのか？</p>
委員A	<p>体協の理事会ではでていない。</p>
委員E	<p>九戸のパークゴルフ協会では役場から運営費をもらって運営している。</p>
事務局B	<p>軽米は芝刈りなどは施設担当者とパークゴルフ協会などが行っている。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階段が滑って危ないし遠いので、テニスコートのトイレを早く作ってほしい。</li> </ul>
委員C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国体役員で一塁側のトイレを使用したけどトイレの個室の所に段差があり、何回もつまづいた。</li> </ul>
委員E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国体に来た選手達が応援を喜んでた。</li> </ul>
49分 委員C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ部門からの提言で他に何かあるか？</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早急に体育館の改修を。</li> </ul>

委員 C	・スポーツ部門で他に優先的にやるのがあるのか？
事務局 B	・今年国体があったので国体のほうに予算を使った。
委員 A	・チャレンジデーもスポーツだがチャレンジデーの参加者はどうなのか？
事務局 B	・今年勝負には負けたが軽米の参加者は去年より 1%くらいは上がった。
事務局 A	・体協やスポ少の活動を紹介したり参加をよびかけるようなホームページを開設したりすれば、良いのでは？
委員 C	<p>スポーツ部門まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに出了意見に加えて、体育協会を法人化していけたら良いのではという意見が出された。協会のホームページを作るなどすれば体育協会の会員同士や各競技団体同士のコミュニケーションが取れて、色々融通をきかせてやっていけるのではと思う。</li> <li>・法人化に関してスポーツのインストラクター等も置いて、トレーニングマシンを活用していける場所やピアール等もしていければよい。</li> <li>・体育館の大規模な改修はまだ予定が立っていないので、早急に修繕をお願いしたい項目がある。雨漏り、体育室の遮光カーテン、照明などすぐをお願いしたい。</li> <li>・テニスコートのトイレを早く作るなどしてほしい。</li> <li>・国体開催では、ボランティアも多数協力して、選手の皆さんに喜んで帰っていただいたという良いお話もあった。</li> </ul>
57	

## 平成28年度第3回軽米町百人委員会

### 文化部会議事録

○開催日時：平成28年11月9日（水）午後6時～午後7時00分

○開催場所：軽米町役場庁舎3階会議室

#### ●文化の部

出席者	田名部晴夫、菅原洋子、玉館鉄総、桜田博之、工藤敬一 5名参加
委員A	・郷土芸能、秋祭りへの参加者が少なくなっている。中学校のよさこいソーランは、子どもたちが自発的に始めたものと聞いている。そういった自ら始めようとするものこそ新たな文化として取り入れていくべきものと思う。
委員B	・昔からのものが1回途切れてしまうと復活が難しくなると思う。どのように継承していくかを考えていく必要がある。 学校とタイアップして、学年ごとにいろいろなことに取り組むというような活動を考えていくことが良いと思う。
委員A	・1年のときは駒踊り、3年になったら神楽とかできたらいい。
委員B	・学校に提案することはいいが、工夫して取り入れるのは学校にお願いするしかない。学年ごとや地域ごとあるいは好みで選ぶなど考え方はいろいろある。
委員A	・子どもの頃習ったものは、記憶に残っている。
委員C	・小軽米には神楽が伝承されているが、これまでは限られた地域で伝わってきたものである。少子化で子供が少なくなったことから、学校区単位の広い地域の子どもたちを対象として伝承できればと思う。長い歴史の中で伝承されてきたものなので、歴史、文化といったものも子供らに伝えていきたい。地元で小学校があった頃は、郷土の歴史を教えに学校へ行ったことがある。
10分 委員B	・地域の文化を伝承することも、大切ということ。
委員D	・たとえば山内神楽は、昔修験者が演じたものだったとかいう歴史的なこともまとめておいて、含めて地域に伝えるとか、映像、記録などで残しておくことも大切なことである。
委員B	・学校では、総合的な学習の時間があって、地域を学ぶことをどの学校でも取り組んでいると思うが、学校間での情報交換がなく子どもたちの交流、発表の場がない。軽米テレビでもいい。

委員 A	・今では、軽米の郷土芸能すべてを伝承することは難しい。軽米には何種類の郷土芸能があるのか？
委員 E	・ 9 団体あります。
委員 B	・ 虎舞いは、親戚に不幸事があって出らないと聞いたので、来年は出るかもしれない。
委員 A	・ 郷土芸能は奥が深いので、今日覚えて明日踊るといったようなことができない。継続することが大切で途切れれば復活が難しい。
委員 E	・ 子どもたちは、参加すれば喜んで参加するが、親が面倒くさがつている場合が多い。親の考え方を変えていかないと駄目だ。
委員 A	・ 社会の変化、生活の変化が影響している。昔は貧乏だったけれども、時間的には余裕があった。その中で楽しみを作っていた。
委員 E	・ ピアノ、スイミングなど教室にも子どもたちは通っているが、やる気のある子供は習いに来る。親の考え方によるところが大きい。
委員 B	・ 親の世代のやる気を引き出していくことが大切ということ。じいさんばあさんだけが頑張っても伝承できない。
委員 E	・ 県の郷土芸能活動のスローガンは、「伝承する参加する」となっているので、軽米町も使った方が良い。
委員 A	・ ラジオで聞いたが、国の指定無形文化財が一番多い県は秋田県だそうです。その理由として家族のつながりが強いことと地域のつながりが強いことだそうです。そういう土壌に郷土芸能などが根付くということだと思います。
委員 E	・ 郷土芸能活動もある程度刺激がないとマンネリ化してくる。発表の場が町内の秋祭り、発表会だけでなく、盛岡や仙台へ出て発表するような経験が子どもたちを活性化させる。目標があれば、日ごろの練習もやりがいがある。
委員 A	・ 11 月 20 日に郷土芸能発表会があるようだが、軽米の団体は出るのか？
委員 E	・ 3 団体で沢田神楽と太神楽と山内神楽が出る。メインは普代村の国指定重要無形民俗文化財の鵜鳥神楽である。 国の指定とかそういう域に達すれば続いていくし、後継者も育つ。九戸村でも補助事業で神楽の祭典を行っている。
委員 B	
委員 E	・ 今回の発表会は、二戸地区の発表会なので軽米から 3 団体。
委員 D	・ 宝くじの助成金は、色々な事業に使えるようなので、郷土芸能団体でも活用できると思う。お祭りの太鼓等の購入にも活用できると思う。
25	

委員 E	・山内神楽は、宝くじ助成や安田生命など使って道具等を整えている。そういった情報は、行政側でも収集して、教えてもらいたい。
委員 B	・先ほど秋田県に無形文化財が多く、要因として地域・家族の繋がりが強いと聞いたが、実は、学力も常に日本一を取っている。何が原因かという家族の教育力、つながり、絆の力ということを聞いたことがある。いろんな面できずなを大切にすること発信していきたい。
委員 A	・郷土芸能を継続発展させるためには、家族のきずな、地域の繋がりでということを再確認して、伝承する、参加する、そして発表の場を作ろうということを実行していくこととまとめたいと思います。
委員 B	・自殺の多い町というのも、きずなを深めれば解消していく。 ・次にお祭りについて、まとめたいと思います。
委員 B	・お祭りを学校行事として子どもたちに参加させるのは、違和感がある。祭り期間は、学校が休みなのだから、関係者がいかにして参加させる体制をとっていくのかが大事と思う。
委員 D	・晴山地区とか小軽米地区など中心部以外の子どもたちにもっと参加してもらいたい。
委員 B	・去年学校へお祭りへの参加要請（稚児行列）をしたが、参加者は少なかった。今年をあきらめて要請しなかったが、参加者が多く、聞いたら、昨年、校長先生が出したチラシを見ていて、参加した方があった。昨年の努力は無駄ではなかった。呼びかけは大事と思う。 ・校長会議などの場で、呼びかけてもらいたい。
委員 A	・実行委員会をもっと機動力のあるものにしていかなければならない。昔は向川原は上館なので参加が難しい時代もあったが、今は、軽米秋祭りなのだから、意識を変え、実行委員会でだれでも参加できるような祭りにしていかなければならない。
委員 D	・いつごろから山車が出るようになったかなど歴史はわかっているのか？軽米町史をしらべても記述がない。蓮台野の太鼓に大正時代の日付はあった。
委員 B	・西幸さんが古い写真とか絵地図があり、どこかに展示して欲しくないかと思う。
委員 D	・私はホームページを作ってアップしているので、貸して欲すればそこに展示できる。

委員D	・町内会や山車団の歴史を知ることができればいいと思う。
委員A	・それは大事と思う。伝統芸能もそれぞれ違った歴史があり、誰でもわかるように調べて残しておくことが大事である。
委員B	・八幡宮の神社史を今まとめているが、山車の歴史まではなかなか難しい。
委員C	・前に八幡宮のお祭りの時代に「なにやどやら」を踊ろうとしたら、祭りにそぐわないと断られたことがある。むかしは長老格の人たちのこだわりが激しかった。 ・育成会が周り番ことか商工青年部が自由参加の山車を出したりしたこともあった。お金がかかることもあって今はなくなった。 ・今は、参加者が少なくなったことも影響している。
委員D	・沢田神楽という名前だが、子どもたちは笹渡とか小玉川とか別の地域から参加している。子どもたちが神楽の練習するとなると夜の時間で親による送迎が必要となってくる。親の理解が大事。
委員C	
委員A	・昔みたいに一服する食堂も少なくなった。今計画している複合施設が出来れば、祭りに参加しながらそこに集まって一休みできる。
委員A	・「軽米の日」を作ろうということの話したが、南部町では月1回南部町特産のものを地産地消しようということになった。
委員E	「軽米の日」を作って軽米の文化とか歴史を知るとか家族のどんらんの日にするとかやってはどうかと思う。日にちを決めてしまえばみんながそれに向かっていく。役場でも「軽米の日」には残業なしとか決めてしまえばとかやればいい。
委員B	・決まりごとはシンプルでなければ定着しない。鍋の日とか軽米の食材を食べる日など。
委員D	・最近では、ネットで何でも手に入る。東京の知人もカッケをネットで購入している。
委員A	・今は年間を通じて、〇〇の日というのがある。特に金がかからないのでできるので、良いと思う。
委員B	・何かわかりやすい設定が出来れば良い。食べ物は解りやすい。
委員D	・鍋なんかは、家族が集まるのでいい効果を出す。 ・今は、孤食（一人で食べる子供）が問題になっている。家族のそれぞれが好きな時に食べる。やはりみんなで集まって食べることの方が良い。

委員 A	<p>文化部門まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土芸能伝承をいかにして継続していくかということで、必要なことは家族のきずなと地域力だという意見が出された。現代は家族力、地域力が希薄となっている。無形文化財の数が日本一の秋田県を見習い、原点に戻って家族愛、郷土愛を高め、学力日本一の秋田県のように郷土芸能を伝承していきたい。併せて、行政側の資金的な援助もお願いしたい。</li> <li>・軽米秋祭りの活性化だが、過去には参加希望者が多数あって、縄張りの的なものを作っていた時期もあったが、現在は逆の状況であり、町内の学校や地域にも働きかけ、広く参加者を募りたい。</li> <li>・第一回目の話し合いで出されたことだが、町民文化祭の作品展が長年開催されてきたが、子どもから大人までの作品が 1000 点以上の並び、文化行事としてこのまま続けていってほしいという意見が出されました。</li> <li>・町民の手により生涯学習フェスティバルが今年で 13 年目となるが、町民の中からいろいろな特技を発表していただいているが、特にも毎年郷土芸能を 2 団体ほど入れて、伝承活動を支援したいと思っている。今後役員会等あるが各団体には積極的に参加してほしいと思う。そういった地道な積み重ねが大切と思っている。</li> </ul>
委員 ara	<p>観光部門のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高速道路から降りたところに観光案内板がほしい。軽米の見どころを表示した案内板があれば来訪者も迷ったりしない。</li> <li>・ミルみるハウスに立ち寄る際に非常の入りにくいという意見があった。大型バスだと益々入りにくいので改善が必要である。</li> <li>・観光客がいろいろなところからきているようだが、何を目的に軽米に来ているのか、1 回アンケート調査を試みるのもいいという意見があった。</li> <li>・その他の意見は、前回の意見の資料にある。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・百人委員会の趣旨として、行政に対して懲りることなく何回でも多くの提言していきたい。</li> <li>・同時に小池知事が先日「批評家でなく、プレイヤーであってほしい」と言っていましたが、私たちも日ごろから自分にできることを積極的に行動していきたい。</li> </ul>

# 平成28年度第3回軽米町百人委員会

## 観光部会議事録

○開催日時：平成28年11月9日（水）午後6時00分～午後7時10分

○開催場所：軽米町役場庁舎3階会議室

●観光の部

出席者	
委員 A	<p>大体課題が出てきたので、あと改善も出てきましたが、改めてまだ結論は出てきていないです。どこを目指すべきなのか。</p> <p>焦点を絞って、現実可能なものを。予算的な面、形式的な面も含めて、これであればやれるかなというふうに絞っていかないと。</p> <p>まずどこを目指すべきなのか。とりあえず今、観光資源がある。あったとしても、どういう観光客を考えるのかと。例えば、観光バスで団体で来る人も確かにいる。通年型で一番多いのは個人でドライブに来る。観光バスで来る人は大体ツアーを組んでどこに行くかが大体決まっている。それをもっと増やすのとドライブの人たちにも一箇所ではなく、何箇所かに回ってもらうにはどうすればいいのか。軽米町はコースをいくつか提案できるように。観光の案内の仕方をしていくべきだと思う。団体客もあるしフリーの個人のお客さん、その両方に対応できるような仕組みを作るべき。</p> <p>今までもパンフレットや商工会でも作っている、ここにはこういう施設があるという紹介だけではなく、例えば、こう回ったら時間的な効率がいい、食べ物を巡るのであればこうという、ルートを提案するような形。</p> <p>ルートと同時に。前々回るとき、案内がちょっと悪い。自分が初めてその街に行ったことを考えてみて、例えば、町民体育館やハートフルなどは行き方が分からない、高速道路から降りて。まずそこからだと思う。</p>

それは、分けて考えれば、必要な整備すべきものだと思う。当然議題にしなくてはならないと思うが、その前にどういう観光を町として提案できるか。そのためには何が必要か、何ができるのかと分けて考えたほうがいいのでは。コースでいうと、今、I G R観光や振興局の方はどうなのか。きているのか、話が。町に。前、臨時でいたときには振興局とI G R観光が二戸の駅からハイキングをやったときに同じようなものを各地各町で作って見ましょうと一戸も九戸も軽米もやって。そこで案だして、やったのが観音林のところここを巡ったり千本松まで行ったり、レンガの建物を回る。それがまだ引き続いてやっているのか。

聞いたことがないですね。円子のそうねんのたまり場ということで円子中心で立ち上げた組織と県北観光さんのほうでは軽米の地元郷土に触れる体験型のツアーというのを何回かは企画。円子の盆踊りに合わせて呼んでみたり、冬にかんじきをはいてみるかという形でという話は聞いていて何回か広報で取材に行ったが。あとは、パルシステムさんと産業開発のほうが中心になって交流というものはやっていますけどI G Rとかっていうのは今は聞いていないのでやっていないのかな。

311の前。その前の秋からいて。八戸でイベントをやる前の準備で。そのあと、産業開発に行って実際のコース作りをした。ただ、役場のときもコースを勝手に自分で作っていた。仕事の中で、やれとは言われていないが、町内のお宝は全部網羅して、そこをつなげてみてやった。小玉川のほうもやってみた。距離もあれなのでI G Rの駅からハイキングにはなかったが。

ツアー的な客、観光バスなどで移動するような客は年間どれぐらい、見込みは。実際に。

多分、夏で何組かだと思う。ただ、観音道八戸のNHK文化センターの講師をやっている人はしょっちゅうバスを連れてきている。そういう人をあの方が八戸の人たちを集めてくる。あとは、三十三観音めぐりをしているのもあれですけど。たとえば、I G R観光ともう少し仲良くすれば盛岡の人たちも連れてこられると思う。

ツアーの団体客。家族連れというかシニアで色んなところめぐって歩いている年齢の方がすごく目立っている。その辺を狙う意味で、もっと案内を一目見ただけで分かるものがもっと必要な形に丁寧にするべきではないか。確かに観音林はすごく聞かれる。場所は大体分かるがそっちのほうですくらしいか案内できない。

私がよくあちこち仕事とプライベートで走っていると三陸とかは案内がわりと分かりやすく出してくれている。軽米、県北だと中々難しい。

そういう看板だと、ここはミル・みるハウスですとか矢印あって写真とかで。あと何キロですとか。

とにかく、初めて来る人を基本にしないといけない。今の段階で案内とか矢印とか分かりますかということ。

他のところは、名所の写真とか、ちょっとしたことを書いている。何キロぐらいで何分ぐらいとか。

ミル・みるハウスにある看板はどういったものですか。

そこまでは書いていない。ほとんど、小学校のほうの入り口から入って門を背中にして見る。

金田一の方からくる、軽米の方から行くのももう少し手前に大きく建てればいい。

ミル・みるハウスのあたりも、高速から降りてきた客が分からない。方向的な感覚が分からない。ただ、町の方に入ってくる。根本的に解決しないといけない。何箇所か、関連付けて。まずどこに行ったらいいのか分からない。

九戸インターを降りると、観光地の看板が何個かあった。

軽米はない。基本的にはそこからだと思う。

軽米はインターを降りて、旧国道ではなくてバイパスの方に行つてぶつかってちょっと左に曲がると向側の斜線に前は看板があったと思う。

最初の信号曲がるのもどっちかね。国道だから難しい面があるのかな。看板を立てられないような規制があるのかな。もっとでっかく一目見て、信号にとまった時にも見て分かるような看板でなければ。

インター降りて駐車場があるがあそこに看板は立てられないのか。

私が、観光課がある時、かなり前なのですが高速道路の敷地でなかなか。

例えば、学校関係の案内、役場の案内、ハートフルの運動場の案内の何箇所かは入ってきてちょっと見ただけですぐ分かるような方向付けは第一に必要な。それから細かい観光地など見る場所の案内がでてくる。

ミル・みるもツーリングバイクなど、南は八戸から来るけど、盛岡の方からも来る。葛巻の方からも来て、あそこで方向変える人が多い。あっちからも来た人にも分かるように。

何箇所か一番利用度、目立つようなところにピンポイントを絞って整備する必要があるのでは。確かにツアーの団体客を狙うのも必要だと思うが年に何回あるのか。それに力を入れるより普段出入りする家族連れを主流に考えてもいいのでは。

ツアーで来る人たちは運転手が場所を調べてくるからね。

個人的な近距離の旅に来た人が言うのは案内が悪い。どこへどう行ったらいいのか分からないとよく言われる。

フォリストパークも何回もバイパスのところで停めて、どっちに行けばいいのか聞かれる。チューリップの時期になると。

ハートフルに来るマイクロバスも狭いところを通る。あっち回った

らいいのと思うけどその案内がない。高速で左側に行く案内がない。クボタのところにも一目で見分分かるような案内がない。そこからだと思ふ。みんな大型バスがバックしてくる。曲がれなくて。危険なことをするからね。逆に曲がれば楽に行けるのになという。初めての人には分からない。その案内が大事。

看板といえば、文化財とかの。

できることを。例えば、ミル・みるを大きくするよりももっと簡単な。ちょっと費用をかければできないことはないでしょ。それから進めるべき。次に内容の充実。

みる・ミルとかフォリストパークなど年間として観光客がくるようなところに詳しい大きい看板を。

小さいのはだめだ。

建てたってすぐ分からないものでは使い物にならない。

低いところではなく、高いところに。

百人委員会は次年度もやるものか。まず、今年度は看板を充実すべき。要所要所の。それから次にソフト的な充実に移す。あれもこれもではできない。自分が他の街に初めて行って分かるか。高速のインターを出て信号のそこ。そこからスタートだと思ふ。あとは、ミル・みるの置いている物の充実はその次。一回にはできない。手っ取り早くやれることからやっていかないと。まず、とにかく地理の不安が一番問題視されると思ふ。私のところに来たらパンフレットをバンバンあげるようにしている。少しでも分かりやすくするように。食堂の前にも観光インフォメーションも外から見えるようにしてきたらあげるハード的に大きく、4・5箇所くらい、一目で分かるようにしないと。ミル・みるハウスも物産館もパンフレットの充実をしないと。案内が。自分のところだけではなく二戸や久慈も。観光協会に言えばもってくる。他のところと連携して軽米だけでは来て見る分には薄い。軽米にもくるけどあっちも見てくださいという形のルート作り北東北でそういう持っていく方をしないとこれ以

上伸びない。それには案内も家族連れにもわかる案内。来たときには軽米から二戸は2・30分だ。行ってみるか。そういうルートを作らないといけない。もっと二戸地区、久慈地区の観光協会の担当者が集まって話し合いをしないといけない。そういう動きがない。私も観光協会の役員会で言っている。事務局さんの会議の案内が来るが私も全部は出れないと一緒に連れて行って欲しい。日当もいらないから。行くときに会議があるがどうでしょうと。それなりの意見が出てくる。事務局さんの段階だけでやると忙しい。行けなければ頼めばいい。例えば極端な話だが。そしてもっと、観光に係る人を巻き込む。二戸地区とか久慈地区などの観光に関する会議に発言するだけでなく、聞くだけでもいいから連れて行って欲しい。場所と時間が分かれば自分でも行く。

今は振興局は、観光のものが二戸はなくなったのですか。

年に2回くらい春と秋、必ずあるはずだな。やっている、広域の会議。そこに行って広域の二戸地域・久慈地域の観光のパンフを合同でもっと充実したのを作って大量に各地区において欲しい。それを訴えたい。

もしかすると、民間・観光協会も含めた、民間のほうに先に連携したほうが早いかもしれない。それで行政を動かしたほうがいい。

ここだけの観光でとらえるから弱い。久慈に来て観光したら足を伸ばして軽米に来てください。あるいは二戸にきたら軽米をみてください。それでいかないとだめだと思う。

ついでに寄ってもらえる。

ついでに寄ってもらえる。それだけでも来てくれればありがたい。

それに関してはその通り。ガイド協会でも同じ意見。

そういう意見を言いたい。事務局だけではなく、観光協会の役員でも一緒にどうですかと案内ぐらいでもしてくれればいい。面倒くさいかもしれないが、行けなければやむを得ないけど。2・3人行く

のを5・6人に連れて行くとか。勉強の機会、発言の機会を持たして欲しい。絶対、軽米だけのフォリストパークだけ見る、資料館だけを見るなかなか来るものではない。他にきたときに通りながら寄ってみるかというような客を狙わなければ。私はそう思う。ここだけで発信するよりは。会議で言って。行事があるときは、近隣の町村にもこういうところがありますよ。ついでに見ていってくださいと案内をしてもらいたい。ここにきたら久慈も近くですから行ってください。二戸に行ってください。平庭だってそうでしょう。あそこに来た人もちょっと足を伸ばしてください。ちょっときてもらえるような魅力をつくる。ここだけではゆるくない。観光客は。お願いするのは、年2回くらいある春と秋に広域の会議が。それに事務局だけ行かないで観光協会の役員に案内を出して。いける人はどうぞ。何時何分です。そういうように発言の場、勉強の場を作ってもらわなければ。いつやるかもわからない。ここだけの観光だけではなく二戸・久慈地域の観光を巻き込んであそこのついでに軽米にきてください。ここのついでにいてみてくださいというようにしなければ、これ以上伸びない。

ガイド協会でもその話をしています。軽米だけではなく。

折爪岳を中心にしたときには、二戸・九戸・軽米と三つ連携したりはしていますがそれ以外だとあまり連携は強くない感じなのか。

例えば、八戸から来ている人はナンバーを見ればどこに行っても分かるからアンケートとる。どういった気持ちできているか。例えばチューリップのところに来たときにチューリップだけを目的としているのか。

それは、いい案だよ。直接来るようなところ。例えば、ミル・みる、物産館、私のところも含めて何箇所かにアンケート用紙を置いて答えてくれる人には粗品をあげるくらいのことをやれば広く意見が集約できると思う。

この間、ハイキュー!!のイベントがあってその時軽高祭に合わせて前の日にコスプレ撮影会をやったらそれに結構人がきてくれた。その

ときに観光バスがバス会社でも特別なバスを用意してくれてそれにいっぱい乗っている感じではなかったんですけど、バス会社も機会というか応援してくれるような、狙っているようなところがあるので、コースを決めて近隣を回るような案とかをだしてもいいのかな。ただ今回は、公共交通で来ると遠いというイメージがあったので自家用車やレンタカーでくる人が多かったようです。

マンガのキャラクターを活用した商品の販売を、町内全体でPRしていけるようにしないといけない。

まとめてもらったのがいっぱいあって、どれもいい意見。どれも提言として言えるもの。今前半で出ていたのが、ただ施設を紹介するだけではなく回りやすいようにコースをいくつか提案しましょう。みなさんにアピールするときに建物だけではなく回り方をお勧めのコース、ルートを提案する形をとるとというのが一つ。一番多く出ているのは看板。施設の案内が足りないということの二つが大きく出ている。その二つについてはそのまま提言として盛り込んでいく形でいいのかと思う。あと一つか二つ、案を出せば。

ミル・みるハウスとミレットの問題が出てくる。ミル・みるハウスが軽米の入り口、玄関口になっていると思う。フォリストパークは目的があってチューリップの時期にくるが、年間通しての一番のお客さんが入る確立が高いところはそこだと思う。出入り口や景観とかまず看板をつくること、そこからスタート。そして中を充実させる。お客さんに気軽に入ってもらうのが第一の問題だと思う。入ってもらい看板があれば、こっちにも行けるんだ、こういうコースがあるんだと。寄ってもらわない限りは。どこかによってじっくりできればそこでコースの案内。

まずは、ミル・みるハウスに寄ってもらおう。

そうすれば案内板は何箇所かに絞ることができる。

家族連れやシニア世代への案内。何も用はなくともちょっと行ってみるかと。そういう案内が足りない。

案内板と同時にあそこに何があるか分かるように。レストランは人が入っているか見えない。土産物売っているの見えない。野菜も戸を閉めているから夏場以外は外から見て売っているのが分からない。道路から見えるようにしたほうがいい。

造り方が奥に長くではなく、横長になれば。

ミル・みるハウスがあるというアピールとミル・みるハウスには何があるかというアピールが必要。施設そのものと中身の説明。

ぱっと見て道の駅だと。道の駅ではないんだけどそういうのが看板を見なくても分かるようにしないと。建物も暗いし、看板も通り過ぎたところに入り口ってあっても。

200m先って言う看板は200m行ってしまうと入り口を通り過ぎてしまうと思うので上手くできないのか。

信号から50m以内は出入り口にはできないとか。

役場だとできない、民間だとできるとか。

小学校側から入っても、ちょっと。

花壇を作るより出入りしやすいように作ったほうがいいと思う。

夏場だとオープンテラスがあればいい。テーブル、ウッドデッキがあって蕎麦やソフトクリームを食べているのが見えるといい。

せっかく屋根があるので。そこを活用すればいい。

役場のほうから活用の仕方を聞いてもらえないのか。

農家の人に産直をやらせる。車から見えるように。そうすれば絶対入る。

観音林は昔、市日をやっていたがそれをミルみるハウスで。今でも

一件、鎌のお店だったかな。

観音林は0の日でしたっけ。

秋田の鹿角では商売人が集まってきてやっていて面白い。結構野菜とか様々売っている。市日のようなもの。

常設ではなく行商人が結構来ている。

お客さんがいっぱい出入りすれば、テナントが増える。発想が逆なんだよ。客が少ないからあんまり物を置いても売れない。どんな人がくるかを考えて、人が出入りをよくすれば販売力もつくし。

これを見ているとすごくいいのがまとまっている。考えてみれば案内板を作るのが大事だった。けどその前に、調査すること。どこにどう設置するか。チューリップの時期になれば紙に書いて案内するたつて地図は終わればどこに行くか分からない。それでも結構きている。

家族連れみたいな人、個人的に車での出入りが多い。

フォリストパークのチューリップだけではなく年間通して人を呼べるようなものを置けば。

野外ステージもあるから夏場にフルに使って。ロックとかやりたい人にやらせて人を集める。冬は無理だが。

あとは、町内でも有名な場所。駐車場がまずない。町民も行って停められない。山に実際入っていける人はあまりいない。ルートもなくてただ山に入っていく人は、畑や道路から直接入っていかないといけない。今すぐではないが森林公園をある程度整備しないと、持っている資源を活用できない。やいほいは車1、2台くらい停められるけどそれ以上は無理。山田は千本松以外に滝が七つ繋がったところがあるが民有地なのでだめだという話だが、せっかくあるのであれば周回コースに入れればいいのでは。

来る人はたとえば何がよくてきたか分からない。

目的があってくるのではなくて通りがかりでも目を引くもの、インパクトのあるものが何かあれば。時間があればそこで休憩していくかとなると思う。

スポーツで来る客はすごく出入りが多い。土日も頻繁。そういう人たちの車を止められるようなところを作れないかな。

盛岡のお店でよく子供の大会があって行くけどもと何人かいて、ご飯を食べるところがなくて口伝えでお弁当の持参になってしまう。見るところもあんまりどこに行ったらいいのか分からないという話を聞いた。せっかく来たから町の方に出るとか、近くに寄ってみるとか。

スポーツ関係の出入りはすごく多い。

パークゴルフも外部から来ている。北海道から来た人がいたが、泊まる場所があれば泊って明日もやっていけるのと言われた。せっかく寄ってもらったのにおいしい。野球の人もそう。宿泊施設があれば、ここに泊って明日帰った方がいいという話が多い。

情報発信が非常に少ない。県内とか北東北のイベント情報を見ても軽米で載るのはチューリップや秋祭りだけ。ちょっとしたものでもいいのから、笹渡のモーモーフェスティバルとか何でもいいから情報を出したほうがいい。

さわくら印刷で出している月に1回の「ぐるっと」の小さいところでも載せられるので情報くれればと。

それ出したら、しっかり取材をして載せてもらえた。ネタを探しているみたい。

最後、今まで出た意見で絞っていくと。看板が第一。その他にぜひ取り組んだほうがいいとか優先的に、至急、急ぎというのが高そうなものは。

どうしてもというならミルみるハウスの改装。

実際の建物の内装や外装をどこまでいじることができるかは、さらに次の話で。ミルみるハウスのアピール、PRということですね。

内部改装ができる年数がもうすぐ。補助を受けているから直せないと話だったが、それは今なくなった。ただ改装するとなったときは200万、300万どこからお金が出るのか。町なのか。ちょっと直すくらいであればみるみる会や、産業開発でもいいがそこは、はっきりしたほうがいい。

ミル・みるに関しては観光部門の考えとしてこういうふうな施設に改装していいのではないかと提案してもいいのでは。

役場ではなく民間の人が提案したほうがいい。